

火葬場の友引稼働（友引休日）の現状

伊籐久雄（NPO法人まちぽっとスタッフ）

『友引でも火葬 札幌市が 26 年度中に稼働 「多死社会」混雑緩和図る「抵抗ない」市民意識踏まえ』 これは北海道新聞（8 月 19 日）の記事の見出しである。

記事は次のように言う。「札幌市は市営の火葬場について、現在は休業している友引の日も来年度中に稼働させると決めた。高齢化が進み多死社会を迎える中、火葬件数は増加を続けており、将来的に受け入れられなくなる可能性があるため。葬儀を行うのは縁起が良くないと解釈されてきた友引への考え方の変化も考慮した。」

本稿では北海道新聞が報道した友引稼働の現状を概観した上で、都内の火葬上の現状を HP 上で調べてみたものである。

1. 北海道の現状（北海道新聞から）

札幌市営の火葬場は清田区の里塚斎場（30 炉）と手稲区の山口斎場（29 炉）の 2 カ所、ともに規模の大きな火葬場である。原則 6 日に 1 回の友引や元日を除き、年 300 日余り稼働している。1 日に火葬できる件数は最大計 177 件で、メンテナンスなども踏まえると年間では計 3 万 9750 件。

市は 18 年の推計で、火葬件数が 54 年度に 3 万 2800 件に達すると予測。待ち時間が長くなるなどの混雑が発生するのに加え、希望日に受け入れられなくなる事態も現実味を帯び、稼働日を拡大することにした。

友引は仏滅や大安などと同じ六曜の一つで、中国の占いが由来。本来は「勝ち負けなし」を意味する「共引」だったとされるが、友引の字が当てられるようになり「友を引き込む」との解釈が広まったという。市民アンケートで「友引の火葬に抵抗がない」と答えた人は 09 年度に 34%だったが、23 年度には 53%に増えており、市民意識の変化も踏まえ稼働を決めた。

北海道内の主要都市では旭川市や帯広市も友引に火葬場を休業しているが、旭川は申し込みがあれば稼働させている。苫小牧市も 21 年度から月 1 回、友引に稼働。担当者は「コロナ禍を受け、火葬の分散を目的に稼働を始めた。一定の需要があり継続している」と話す。函館市は以前から友引も稼働させている。

札幌市は当面、友引の日には里塚斎場と山口斎場の片方を交互に稼働させる予定。市ウエルネス推進部は「混雑を少しでも緩和できるよう友引の稼働を周知したい」としている。

2. 都内 23 区の現状

23 区は全国的には特異な地域である。東京博善（現在は株式会社広済堂ライフウェルが「東京博善のお葬式」として運営している、町屋、落合、堀ノ内、代々幡、桐ヶ谷、四ツ木斎場の 6 箇所）という民間事業者が最も多い。その他はやはり民営の戸田火葬場（株式会社戸田火葬場、板橋区）、2 箇所の公営火葬場がある（都営瑞江商議所、港区・品川区・目黒区・大田区・世田谷で構成する一部事務組合の臨海斎場）。

東京博善の 6 箇所は友引休業、戸田火葬場、瑞江商議所も友引休業、臨海斎場は休業日（火葬施設：1 月 1 日～3 日、葬儀施設：12 月 31 日午後～1 月 3 日午前）でその他の日を稼働している。

3. 多摩地域の現状

- 南多摩斎場（南多摩斎場組合） 構成市（八王子市、町田市、多摩市、稲城市、日野 4 市） 火葬が集中する期間（冬季）について、「友引日」の一部を開場
八王子市斎場（市営） 友引休日
檜原斎場（八王子市まちづくり公社運営） 全館休館日 1 月 1 日～1 月 3 日
- 立川・昭島・国立聖苑組合（一部事務組合） 友引稼働
- 青梅市火葬場（市営） 友引休日
- 府中の森市民聖苑（市営） 友引休日（ただし月 1 回）
日華斎場・多磨葬祭場（株式会社日華） 友引休日
- 瑞穂斎場組合（構成市：福生市、羽村市、武蔵村山市、瑞穂町、埼玉県入間市）
友引休日
- ひので斎場（秋川流域斎場組合、構成団体：あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩町） 友引休日
- ※ 以上のように、多摩地域の現状は一部事務組合 4 箇所、市営（指定管理尾者を含む）4 箇所、民営 1 箇所となっている。
- ※ 市内に火葬場のないところは、市民葬儀制度がある。市民葬儀制度は、葬儀を行う場合に標準的な葬儀を定め、市民の負担を軽減することを目的としている。主には葬祭、霊柩搬送、火葬を市の指定を受けた市民葬儀取扱業者が行うことなどをさだめている。

4. 課題

都内の現状をみても、まだまだ友引休日のところが多い。「友引」は六曜（先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口）の一つで、この漢字の意味から「友を引く」というように捉えられ、日本では葬式では避けられる傾向があった。しかし北海道新聞の記事のあるように、「友引の火葬に抵抗がない」と考える人が増えており、市民意識も変化してきている。結婚式もかつては仏滅を避ける傾向にあったが、現在では仏滅の結構式も普通になっている。カレンダーの記載から六曜がなくなっているように、葬儀の友引休日も稼働する時期である。

23 区は民営火葬場が多いので、基本的に自治体運営が多い多摩地域から、意識的に休日稼働への転換を図るべきである。それは、まだまだ社会の一部に残る火葬という職業への差別意識をなくしていくことにもつながるからである。

※東京 23 区の火葬料の高騰が問題になっているが今回は割愛した。

<参考資料>

■友引でも火葬 札幌市が 26 年度中に稼働 「多死社会」混雑緩和図る 「抵抗ない」
市民意識踏まえ 8/19(火) 北海道新聞

<https://news.yahoo.co.jp/articles/0f738c93cc33658cf4ee64626443b37679fa5b6e>